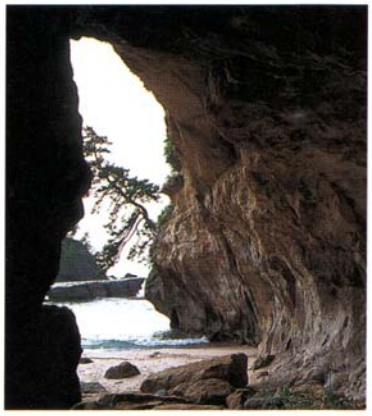
十一

琴ヶ浜を歩く音（泣き砂）



「能登、門前町、琴ヶ浜。この浜に残る悲恋の伝説。ヒロインおさよのすすり泣きのように砂が鳴るところから、泣き砂と呼ばれています。」

かいせつ

門前町の西南部にある長さ約1,500m、幅約40mの美しい砂浜――琴ケ浜。この海岸の乾いた部分をすり足で歩くと、キュッキュッという摩擦音が聞こえてきます。これはガラスや陶磁器の材料でもある石英という粒子が多く含まれているためで、琴ケ浜に流れ出る仁岸川上流からきた石英が、日本海の荒波に洗われて堆積したものです。琴ケ浜には、砂の鳴る音にちなんだ悲恋伝説も伝わります。「おさよの婿どの重蔵は、輪島、舳倉島間をゆきかいする渡しの船頭を生業としていたが、ある日の時化で愛する夫はついに帰らなかった。それでも夫の生存を信じるおさよは、毎日、夫の船出を見送った琴ケ浜の磯に立って、船の帰るのを待った。おさよの涙は白砂の浜にしみこんでいったが、待ちに待つ夫はついに帰らぬ人となった。おさよの死後幾日もたったある日、浜べの人が砂の上を歩くとそのたびに、足もとの砂がかすかに鳴るのに気がついた。それ以来このあたりの浜を「泣き砂の浜」と呼ぶようになった。」